



## 第2会場

■司 会／馬場 尚登(大分県) 大分県教育庁生涯学習課推進班社会教育主事  
富原 邦彦(福岡県) 福岡県北九州教育事務所社会教育主事

### 1 多久聖廟「ジュニアガイド」にみる少年の地域貢献活動の成果と意義

—「総合的な学習」を生かしたふるさと文化財の研修と観光交流の実践—

田島 恭子(佐賀県多久市) (財)孔子の里事業担当

現在2期目の「ジュニアガイド」養成研修を実施中である。ガイドプログラムの参加者は小学校4年生以上27名。学校の総合的な学習を生かして、多久聖廟の歴史・文化ガイドの実践的知識・技術の研修を受講後、地域貢献活動の現場に出て、多久聖廟を訪れた人々を対象に子ども観光ガイドとして活躍している。自らの実践を通して、子どもたちのふるさとについての関心や誇りが向上し、この事業を育ててきた大人の「世話組織」も充実してきている。

### 2 少子化・高齢化・過疎化に対処する「地域一体」・「学社連携」型子育て支援の内容と方法

—「ゆすっ子クラブ」を核とした地域の相互支援システムの形成—

水足 浩(高知県梶原町) 「ゆすっ子クラブ」主任指導員

拠点を梶原小学校に置き、地域全体を巻き込んだ「ゆすっ子クラブ」は、障害のある子どもも受け入れる地域の子育て相互支援システムを目指している。少子化、高齢化、過疎化を視野に入れた保護者、住民、高校生が一体となっていくなう子育て支援プログラムである。平成17年度から創設、保護者の代表5名が理事となり、事業計画を立案。町内企業にも協力を呼びかけている。実施上のボランティアスタッフは20名(一般10名、高校生10名)、指導員3～5名である。

### 3 保育園・小学校・地域住民の合同開催による島の生涯学習・生涯スポーツフェスティバル

廣田 秀夫(長崎県西海市大瀬戸町) 松島地区公民館館長

人口700人足らずの離島の「融合」実践。小学校も、地区住民も「運動会」の実施が困難となり、全島一丸を目標とした「松島はずもう Day」を設定し、保育園、小学校、公民館の行事を組み合わせた「融合」事業を創設した。企画は「実行委員会」形式をとり、関係機関の代表者が知恵を寄せ合い、予算も持ち寄りで力を合わせた。会場は小学校、参加者が確保できたにとどまらず、島のにぎわいに貢献し、世代間の交流も進み、盆踊り等伝統文化の継承にも役立ち、世話役の負担も軽減された。